

# 平成27年度 麻生中学校 「学校をよりよくするためのアンケート」結果考察

## 1 家庭学習の習慣化

保護者	お子さんは、毎日、時間を決めて家庭学習に取り組む習慣が身に付いている。
生徒	月曜日から金曜日、家庭学習を1日1時間30分以上行うようにしている。
教職員	生徒に家庭学習の習慣が身に付くよう指導の充実を図った。

家庭での学習習慣の形成については、生徒の意識が、昨年度との比較においてわずかながら向上している。特に3年生の数値が高く（とてもよう思う：57％，そう思う：29％）、高等学校受験に向けた準備が早い時期になされたと考えられる。

また、教職員の意識が高くなっていることも、生徒の意識を高めることにつながったと思われる。今年度は、キャリア教育についての校内研修を行い、生徒の将来について、自分自身が主体的に考え行動できるように取り組んできた。来年度も継続し、自分の将来を見据えた学習習慣がより身に付くようにしていきたい。

## 3 読書の習慣化

保護者	お子さんは、家や学校で読書をする習慣が身に付いている。
生徒	読書タイムや家読（うちどく：家での読書）に意欲的に取り組んでいる。
教職員	読書タイムを有効に活用し、生徒の読書習慣が身に付くよう指導した。

今年度は、学校での「読書タイム」に、「家読（うちどく）」の習慣化についての調査項目を加えた。それにより、生徒の意欲についての数値が大きく低下した。そこから、学校での読書指導が家庭での読書習慣に効果的に結びついていないことが分かった。

県の事業である「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」で県教育長賞（年間30冊読書したことによる表彰）を受賞した生徒が大きく増えたことから、生徒の読書意欲は高いと考えられる。来年度は、家庭学習の内容についての見直しも含めて、読書の時間の確保に努めていきたい。

## 4 清掃の習慣化

保護者	お子さんは、家庭で身の回りの整理・整頓や清掃などを行っている。
生徒	清掃に意欲的に取り組んでいる。
教職員	生徒と共に清掃活動を行ったり、必要に応じて適切な指導を行ったりした。

今年度、最も生徒の数値が低下した項目である。教職員の意識も低下していることから、学校での指導状況が、そのまま生徒の清掃に対する意識の低下につながってしまったと考えられる。

また、保護者の調査結果から、家庭での実践に結びついていないことも明らかになった。来年度の重点項目として取り組んでいかなければならない項目である。

## 7 学習指導の充実

保護者	学校は、生徒が学習内容を理解できるよう工夫した授業を実践している。
生徒	先生は、分かりやすい授業を行っている。
教職員	生徒にとって分かりやすく主体的に取り組むことができるよう、授業の工夫・改善を図った。

「とてもそう思う」回答した生徒が、昨年度より12ポイント増加した。今年度、授業改善として取り組んできた「アクティブラーニング」を主体とした学習についての取組が、生徒の意識を高める上で一定の成果を上げたと考えられる。

しかし、保護者の数値はややマイナスに転じていることから、生徒が活発に関わり合う中でも、生徒の学習状況に合わせ、基礎・基本の定着を個別に図っていく必要があると考えられる。

## 8 子どもの人格の尊重

保護者	学校は、生徒の人格を尊重し指導にあたっている。
生徒	先生は、生徒の人格を尊重して指導にあたっている。
教職員	生徒の人格を尊重して指導にあたった。

「とてもそう思う」と回答した教師の数値が21ポイント上昇しているにもかかわらず、生徒の数値は-7ポイント、保護者は-4ポイントと低下している。このように教師の意識と生徒・保護者の意識とが相反している結果が見られた。質問10との関連を踏まえ、教師の言葉がけについて、生徒一人一人との関係性を深めるなお一層の努力が必要であると考えられる。

## 10 体罰や暴言のない学校づくり

保護者	学校は、体罰のない学校づくりに努めている。
生徒	先生は、体罰のない学校にしようとして取り組んでいる。
教職員	体罰や暴言がない指導を心がけ、「体罰0の学校」の実現に向け取り組んだ。

今年度、教師の調査項目に「暴言がない」を追加したところ、「体罰や暴言のない指導」に対する教師の意識が-22ポイントと低下した。体罰そのものに関する意識は、生徒・保護者とも昨年度より高まっており、教師の意識も校内コンプライアンスに関する研修等により高まっている成果であると考えられるが、生徒に対する言葉がけについては、不十分な実態であることと考えられる。この結果を踏まえ、来年度の課題として取り組んでいきたい。

## 11 教育相談の充実

保護者	学校は、生徒や保護者の相談に親身になって対応している。
生徒	先生は、生徒の相談に親身になって応じている。
教職員	生徒や保護者と相談（連携）する時間を積極的にもち、相談には親身になって応じた。

今年度の教師の調査項目に、教育相談における「保護者との相談（連携）」を加えたところ、積極的に取り組んでいるという教師の回答が-16ポイント低下した。現在の教育相談は、学校だけで解決するのが困難な内容が増えてきており、その内容も複雑化してきている。保護者とともに問題を解決していくという取組を今後も推進していくことで、本校の課題である、「不登校・長期欠席生徒の未然防止」につなげていきたい。

## 12 生徒が中心となった学校行事

保護者	学校では、生徒が中心となった学校行事が行われている。 (体育祭・友輝祭・修学旅行・宿泊学習・遠足・職場体験学習等)
生徒	先生は、生徒が中心になって行う学校行事にしようとして努力している。 (体育祭・友輝祭・修学旅行・宿泊学習・校外学習・職場体験学習等)
教職員	学校行事の運営には、生徒が主体的に関われるよう指導した。

生徒の「生徒が中心となった学校行事」が行われているという意識は、昨年度に比べて33ポイント上昇した。保護者の意識も8ポイント上昇しており、今年度「生徒の主体的な活動を中心」に取り組んできた成果が現れてきていると考えられる。来年度もさらに推進し、将来にわたって活躍できる生徒の育成につなげていきたいと考える。

## 17 部活動の充実

保護者	学校は、部活動の指導を熱心に行っている。
生徒	先生は、部活動を熱心に指導している。
教職員	部活動の指導を熱心に行い、生徒の主体性が向上するよう工夫して指導した。

部活動については、生徒・保護者・教職員ともやや数値が低下傾向にある。保護者及び生徒の自由筆記による記述内容においても、部活動の改善を要望する内容が多かったことも鑑み、来年度に向け、部活動に対する取組を改善していく必要がある。

## 19 開かれた学校づくり

保護者	学校は、教育方針や教育活動、生徒の様子を分かりやすく伝えている。 (ホームページ・校長室だより・学年だより・学級だより 等)
生徒	麻生中の生徒の様子が外部で紹介されるのを楽しみにしている。 (ホームページ・校長室だより・学年だより・学級だより・新聞・テレビ)
教職員	生徒の様子を外部に積極的に紹介している。 (ホームページ・学年だより・学級だより・新聞・テレビ)

今年度、生徒及び教職員にも新たに加えた内容である。保護者の回答を昨年度と比較すると、「とてもそう思う」という回答が16ポイント上昇した。毎日のホームページの更新や校長室だよりに積極的な情報公開が評価されていると考えられる。

しかし、生徒の「生徒の様子が紹介されるのを楽しみにしている」という回答は決して高くはない。各学級や学年で発行している学級便り・学年だよりの内容をよりよくしていくことで、生徒が楽しみに待つものにしていく必要がある。

## 20 充実した学校生活

保護者	麻生中学校に入学させてよかったと思っている。
生徒	麻生中に入学してよかったと思っている。
教職員	本校で勤務してよかったと思っている。

「麻生中学校に入学してよかった」と回答している生徒の割合は、「とてもそう思う」がやや低下しているが、「そう思う」を加えると、肯定的な回答は依然として94%である。これは、「そうは思わない」と回答した生徒が2ポイント低下していることから、比較的良い数値であると考えられる。来年度も、充実した学校生活を送れるように取り組んでいきたい。